

ヘラクレス軍団 準優勝



天理戦タックルを受ける長崎 健太郎（体育4年）



天理線トライを決める武藤 翔



表彰を受ける竹内 擁騎主将



コンバージョンゴールを決める沢良木 僚平（健康福祉4年）

近大、天理大、同大撃破

中谷誠新監督が就任して80日。シーズン開幕を前に早くも新生ヘラクレス軍団がバールを脱いだ。新生ヘラクレス軍団の初陣となった今大会、良い意味で期待を裏切られる結果となった。

関西セブンズは通常の15人制ではなく7人制で試合を行う大会だ。15人制とは違いスピード感があり、より激しい戦いが最大の魅力だ。今大会は、7人制ラグビーが2016年開催のリオデジャネイロ五輪の競技になったことで行われた。社会人チームを含めた14チームで、東京で開催されるセブンズフェスティバルの出場権を競った。

ヘラクレス軍団は大会2日前からこの大会に向けて練習を始め、十分な対策が出来ないまま急造のチームで大会に臨んだ。しかし試合になると、6日に行われた予選プールでは昨シーズンのリーグ戦で黒星を喫している近大を38-12の大差で破るなど3戦3勝（1不戦勝）で決勝トーナメントへ駒を進めた。

「チーム一丸となって和して勝とう」をスローガンに掲げてスタートした中谷新体制。中谷監督は「新チームをキャプテンが一つにまとめてくれている」と評し、竹内擁騎主将（体育4年）を中心に早くも歯車がかみ合い始めている。

決勝トーナメントの初戦で対戦したのは関西で敵なしと言われる天理大だった。試合開始早々に右サイドを突破され早くも失点。そして続けざまに、右サイドから崩されてDFの間を突破され左サイドにトライを許す。昨シーズンの関西王者を前に暗雲立ち込める展開となった。しかしその雰囲気を取り払ったのが今大会絶好調の武藤翔（同4年）。前半終了間際にパス回しで天理DFを翻弄すると武藤が一人抜け出し中央にそのままトライ。14-5としてヘラクレス軍団が反撃ののろしを上げた。

後半は勢いそのままヘラクレス軍団のペースとなった。「フィジカル面で勝てた。チャンスを逃さなかった」と中谷監督。ボールをキープして幾度となくチャンスをつくり、14-12まで迫るトライとキックを決める。そして逆転のトライを決めたのはもちろん武藤。中谷監督は「体もできていてバランスもいい。つかまっても引きちぎっていく強さがある」とべた褒め。その言葉の通りまたしてもパス回しから天理DFの隙を抜け約20メートルの独走でトライを決めた。

「天理大戦に勝てたのが大きい」と中谷監督。勢いは止まらず、関西の強敵・同大を仕留め、決勝まで上り詰めた。決勝で社会人チームHondaHEATに14-17で惜敗したものの、社会人相手にも臆さない力強さを見ることができた。7人制ラグビーといえど身体能力で劣ると言われていた天理大にフィジカル面、スピード面で勝利、関西の覇者を下したことは大体大にとって大きな自信となるはずだ。

4月6日、7日に本大学ラグビー場で関西セブンズ大会2013が開催され、大体大ヘラクレス軍団は昨季の関西大学リーグ覇者・天理大を破るなど準優勝と大健闘した。7人制の全国大会出場は惜しくも逸したものの、今季への期待を抱かせた。【学生記者 増田知己、写真も】